

# 幌延町開基120年記念式典

幌延町は、明治32年に開拓の鋤が下ろされてから平成30年で120年を迎えました。

北緯45度の厳しい風雪に耐え、幾多の苦難を乗り越えて、今日の礎を築かれた先人に感謝するとともに、輝かしい未来につながることを祈念して、平成30年10月20日(土)に、幌延町深地層研究センター国際交流施設で「幌延町開基120年記念式典」を開催しました。

プロローグでは、開基120年記念映像「未来へつなぐ幌延町120年の軌跡」を上映し、岩川副町長による開式のことば、国歌斉唱、先人への黙祷と進められ、野々村町長による式辞、植村議長による挨拶の後に、幌延町開基120年記念表彰、幌延町条列表彰を執り行いました。続いて、受賞者謝辞、来賓祝辞、記念演奏が行われ、高橋副議長による万歳三唱、木澤教育長による閉式のことばで式典を締めくくりました。



式典には、開基120年記念表彰・条列表彰受賞者や来賓などを含め、約120名が出席しました。

式典には、開基120年記念表彰・条列表彰受賞者や来賓などを含め、約120名が出席しました。

私たちが、北緯四十五度の風雪と酷寒にさらされながらも、新天地開拓のために心血を注いだ先人たちの労苦を忘れてはなりません。茫漠たる荒野は湿潤な泥炭地であり、人々は大地の恵みを手にするために、幾多の困難と闘ってきたので

す。幌延町は、明治三十二年、千古斧鉞を知らぬ鬱蒼たる密林に覆われた人跡未踏のこの大地に、開拓の鋤が下ろされてから一二〇年を迎えました。

本日ここに、幌延町開基一二〇年記念式典を執り行うにあたり、時節柄ご多用の折にもかかわらず、ご来賓各位をはじめ、多くの皆様にご臨席を賜りましたことは、この上ない喜びであり、厚くお礼を申し上げます。



すが、時には、かつて経験したことのない冷夏と、繰り返し襲い来る洪水により、農作物は一夜にして壊滅されたとあります。

幌延町の歴史の中には、筆舌に尽くせぬ先人たちの労苦が秘められており、たゆまぬ努力と不撓不屈の開拓者魂によって、本町の礎を築き上げた先人たちに対して、心から感謝と敬意を捧げる次第であります。

幌延町の歴史を顧みますと、草創から十年後の明治四十二年には、幌延村外一カ村戸長役場が現在の元町地区に設置され、二百九十二戸、千二百九十七人が住むに至りました。大正十二年に問寒別駅が、次いで大正十四年には幌延・問寒別間の鉄道が開通し、幌延、上幌延、安牛、雄信内の各駅が営業を開始しております。昭和六年には、住民生活の安全確保のため公設消防団が設置され、昭和八年には、関係者の東奔西走の努力が実り、現在の農業協同組合の前身である産業組合が設立され、度重なる冷

害凶作に苦しむ農家を支援しました。戦後、これまでの苦難の経験から、酪農專業による農業の振興が図られてきました。昭和三十二年に乳牛が千頭を超え、昭和四十四年には五千頭にまで達しました。現在、基幹産業である酪農は、乳牛の飼育頭数七千六百頭、生乳生産量三万五千トンであり、道内でも有数の酪農の町として発展してまいりました。商工業におきましても、経営力の強化と近代化が進められるなど、経営の安定と消費者の利便性の向上が図られてきました。

また、本町では、平成十三年四月に幌延深地層研究センターが開所され、その後、幌延地圏環境研究所も開設となり、町内において最先端技術の研究が行われるとともに、町の人口減少の抑制や地域の活性化が図られるなど、さまざまな点において地域振興に寄与され、町・住民・商工業者とその恩恵を受けているとこ